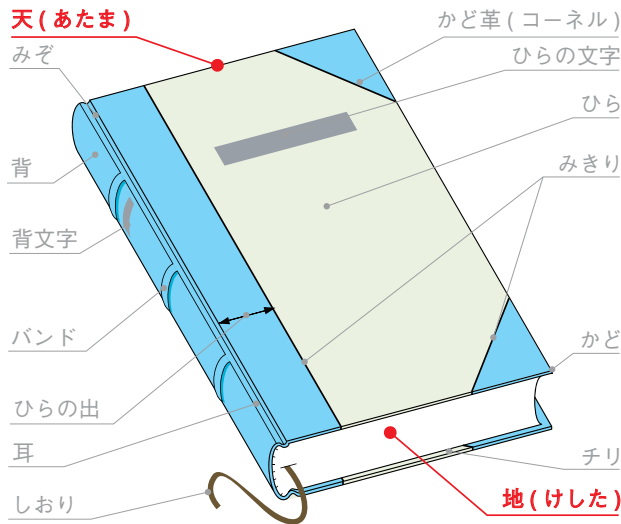
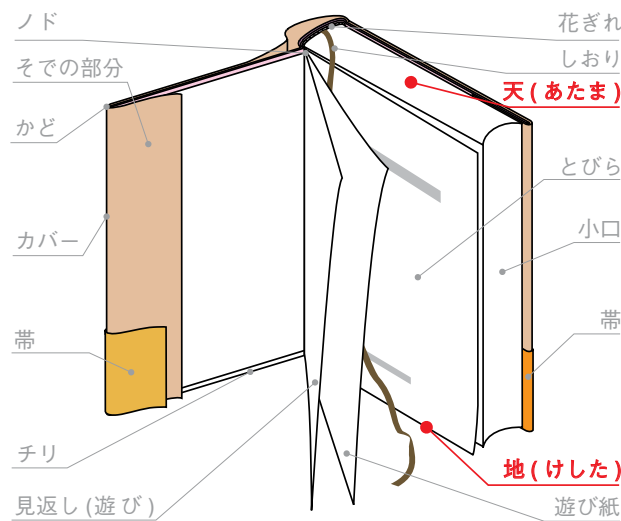


# 天・地

てん・ち



## 書籍の部分名称



## 誌面の部分名称

## 概要

天(てん)は書籍や雑誌などの冊子で、上方の裁断面をいいます。地(ち)は同様に下方の裁断面をいいます。それぞれ、広い意味での小口(こぐち)の一つです。

また、書籍や雑誌などの紙面において、内容が印刷される範囲[=版面]周囲の余白(マージン)のうち、上方の余白を天、下方の余白を地と呼ぶ場合があります。このうち下方の余白は野下(けした)ともいいます。

天地(てんち)という場合には、冊子や紙面、版面、図版など各種の対象物における上下方向の寸法を指します。

書籍や雑誌などの冊子では一般に、1枚の大きな用紙の両面に複数のページ(16ページ分や32ページ分など)の内容を並べて印刷し、それを折りたたむことで1ページの大きさにし、綴(と)じられた側を除く三方(さんぼう)を裁断し外形を整えます。折りたたむことによって三方のうち綴じられた側と反対の側は半分が袋状になり、残る二方のうち一方は完全に袋状の部分、反対のもう一方は完全に開いた状態となります。たとえば標準的な折り方では、本文が縦組みの場合は下部が袋状(上部は開いた状態)になり、横組みの場合は上部が袋状(下部は開いた状態)になります。したがって、原理的には裁断は最低2箇所済むので、その場合はじめから開いた状態だった側は未裁断のまま製本されることとなります。この方式は、工程を簡略化することで価格を低く抑えようとする文庫本や新書本などで以前は見られましたが、未裁断の面が流通や所蔵の段階で汚れやすいため、現在ではほとんど見られなくなりました。